

Konan Today

No. 68
2025 Autumn



Konan Today No.68



©わたせせいぞろ／APPLE FARM INC.

2025年10月1日発行 [発行] 甲南学園広報部 〒658-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9番1号 TEL.078-431-4341 (代) <https://www.konan-u.ac.jp>

Nanbo Today



ボクも表紙のように、過去と現在をタイムトラベルしてみたよ！
昔の正門と1号館はこんな感じだったんだね～

甲南初が続々と！
前進する
SPIRITS

スピリッツ

X線・ガンマ線天文学
の最前線

なるほど！甲南アカデミア
理工学部 物理学科 准教授 田中 孝明

【就活最前線】甲南大生の就活事情と
オール甲南ネットワークによるサポート体制

CONTENTS

02 特集

甲南初が続々と! 前進するSPIRITS

- 03 ベナン共和国出身アフリカ人留学生
ミガン・アントニーさん
- 05 理系女子特別推薦入試入学者
川上 小春さん
- 07 スポーツ推薦入試【自由枠】入学者(競技種目:テコンドー)
中濱 優佳さん
- 09 全日本学生音楽コンクール大阪大会 声楽部門高校の部1位入賞
福留 颯一さん

11 さまざまな分野の第一線で活躍する卒業生 It's KONAN Style

墨絵師 井上 慶美さん

13 高中TOPICS

HEART GLOBAL
第1回ソフィア講演会
葉田 順治氏よりトレーニング機器を寄贈されました

15 なるほど! 甲南アカデミア

理工学部 物理学科 准教授 田中 孝明
X線・ガンマ線天文学の最前線

理工学部 物理学科 教授 秋宗 秀俊
<NEWS>2027年、天体観測室が誕生

18 新任退任教職員紹介

19 KONAN TOPICS

21 就活最前線

甲南大生の就活事情と
オール甲南ネットワークによるサポート体制

25 甲南解体新書 #07

変わりゆく学舎

27 岡本ぶらり 第17回

あのところも現在も、甲南大生は岡本で Part2

29 KONAN FORUM

課外活動成果報告／
新刊一覧 ほか

裏表紙 Nanbo Today

表紙の1枚
わたせせいぞろいが描く「甲南」の日常
THEME「甲南学園」
～「甲南の伝統」を紡ぐ～



甲南大学初
スポーツ推薦入試【自由枠】
テコンドー競技入学者



甲南大学初
アフリカ人留学生

甲南初が続々と! 前進する SPIRITS

「個性を尊重し、各人の天賦の特性を伸張させる」。創立者・平生飢三郎が掲げた教育理念のもと、探究心や向上心を胸に抱き、未来へ突き進んでいく学生たち。「甲南初」を冠し、キャンパスに新たな風を起こす4人のスピリッツに注目です。



甲南高等学校初
全日本学生音楽コンクール
大阪大会 声楽部門
1位入賞者



甲南大学初
「リケジョ入試」
入学者



甲南大学
初

ベナン共和国出身アフリカ人留学生

ミガン・アントニーさん

自然科学研究科 知能情報学専攻 博士後期課程 1年次

母国の農業を助けない トウモロコシ収穫ロボットを研究中

西アフリカのベナン共和国から、最先端のロボット技術を学ぶため、はるばる海を越えてやってきたミガン・アントニーさん。甲南大学初のアフリカ人留学生であるミガンさんに、日本を選んだ理由や日本とベナンとの違い、大学院で取り組んでいる研究などについてお聞きしました。



日本語学校で仲間とともに。この学校は日本でも活躍したベナン出身のタレント、ソマホン氏が設立した。

産業ロボット分野が熱い 日本への留学を決意

高校生のころ、将来はどんな仕事に就くべきかいろいろ悩み考えた末、これからの時代に必要となるロボット技術を学ぼうと思いました。当時、影響を受けたのが脳神経外科手術の支援ロボット「ROSA」を開発したベルタン・ナフム氏です。医療用ロボット工学の分野で活躍する起業家で、ほかにも肝臓がんの治療に対する革新的な技術などを開発しています。フランスで活躍するナフム氏のルーツがベナンにあることにも触発され、私もロボット技術で人々の暮らしに役立つものを作りたい、と強く思いました。

しかし、ベナンにはロボット工学を専門に学べる大学がありません。当初は仏語が英語圏への留学を考えましたが、自費で行けるわけもなく、国費留学はハードルが高くてかきません。進学し、電気・電子工学を学びましたが、機会があれば留学したいとずっと考えていました。

世界のロボット技術については、常に情報収集していましたが、あるとき産業用ロボットの世界市場において、その約6割を日本製ロボットが占めていると知り、注目するようになりました。本田技研工業(株)のヒューマノイドロボット「ASIMO」や、サイバーダイン(株)の世界初の装着型サイボーグ「HAL」の動画を見て、大学で学んでいる制御技術がこれらのロボットの「動き」にどのように使われているのか、とても興味をもちました。そこで日本に留学したいと考え、日本大使館に問い合わせしてみると、

ロスが出てくるので、人の手によって収穫されています。熟したトウモロコシを選別・収穫できるロボットの開発は、農家の負担を軽減することにも、ベナンの農業生産性の向上に貢献できると考えました。

この研究テーマで、2023年に神戸市主催の「アフリカ開発を加速させるビジネスアイデアコンテスト」で学生賞を受賞し、2024年にも大手農機具メーカー主催の「第35回ヤンマー学生懸賞論文」で優秀賞を受賞しました。

実際に研究を進めていくと、神戸情報大学院大学での2年間では全然足りませんでした。引き続き研究を続けられる環境を探したところ、当時在学学生ではないにもかかわらず、入部させてもらっていた合気道部のある甲南大学に、ロボティクス研究室があると聞き、見学に行きました。ここなら続けて研究ができると思い、数か月間の研究生を経て、大学院入試に合格。2025年4月からは大学院生として岡本キャンパスに通っています。

研究の一環で、畑を借りてトウモロコシを育てています。植え付けから収穫までの工程を理解するため、実際に作業を体験し、収穫ロボットに必要な機能の検証に役立てています。

ロボットが自動でトウモロコシひとつの収穫タイミングを判断するために、AIの画像認識機能を使用します。ロボットに収穫させる「熟したトウモロコシ」をあらかじめ学習させるため、大量の画像データが必要です。借りている畑の収穫時期には、AIの学習用にできる限りたくさんの「熟したトウモロコシ」を撮影に行きます。普通ならチームで行うような研究をすべて一人でやっているため、やるのが多く大変です。



学費が無料の日本語学校を紹介してもらえました。大学の学びと並行しながら、日本語学校でも5年間、日本語をしっかり勉強しました。

2022年秋、来日 念願のロボット研究をスタート

大学を卒業後、一度は就職しましたが、JICA(国際協力機構)の奨学金プログラムの選考に合格し、晴れて日本へ留学できることになりました。2022年10月、JICAの紹介で神戸情報大学院大学に入学。念願だったロボット技術を学び始めました。研究するテーマは「トウモロコシを自動で収穫する農業用ロボットの研究開発」に決めました。

トウモロコシはベナンの主食であり、最も生産されている穀物です。ただし、作っているのは家族経営の小規模な農家が多く、広大な畑地を少人数で管理・作業しています。トラクターなど農機による収穫は、どうしてもキズがついて

社会起業家も視野に入れ ロボットの実用化をめざす

平日のほとんどは甲南大学のロボティクス研究室で、朝から夕方まで研究に関する作業をしています。研究のための装置やロボットがそろっている環境、指導教員のサポートがあることを、とてもありがたく思っています。ベナンで電気・電子工学を学んでいたころは、実験に必要な器具が大学に無いことが多く、自分のお金でそろえる必要がありました。

ベナンと日本の違いはたくさんありますが、日本では大学生の就職活動のスタート時期がとて早く驚いています。ベナンの大学は運営体制がしっかり整っていないため、卒業日さえ明確に決まっていなかった。なので、就職活動は卒業してから始めるのが普通で、そもそもベナンには企業数が少ないため、人脈を生かして入社するケースが多いです。

海外へ留学して高度な専門知識や技術を身につけても、それを生かせる企業や環境がベナンにはほとんどありません。そのため留学後はそのまま海外に居住する人も多く、優秀な人材が流出してしまうことが母国の課題だと感じています。

現在の研究が完成し、実際にロボットを製造するには、ロボット関連の企業に就職するか、もしくは社会起業家として自分でやっていく道もあります。いずれにしてもトウモロコシ収穫ロボットを実用化して、母国の農業に役立てたい。ベナンはもちろん、ほかにも必要とするさまざまな国へ向けて、広く展開することが目標です。



キャンプ場に広がる星空をスマホで撮影中。

2年次には長野県での天体観測合宿も予定されています。中学生のころ、キャンプに行って家族でながめた星空を、次は同じ学科の友人たちと望遠鏡を使って観測できるのかと思うと、とても待ち遠しいです。2027年に完成する新しい理系棟には甲南大学初の天体観測室ができるそうなので、宇宙好きな私にとっては、うれしいことづくしです。



高校でも物理を選択している女子は少なかったのですが、大学入学後も物理学科に女子がどれくらいいるのか気になっていました。そんな中、入試のときに甲南大学の先生から「世界的に見れば、女性の科学研究者が少ないというわけではない」と教えていただき安心したので覚えています。日本でも理系分野について大学で学び、理系の職業をめざす女子が増えてきています。現在、私が在籍する物理学科の1年次は42人中、女子が6人と、本学の理工学部の中では女子の人数は少ないほうですが、先生方が気にかけて、よく声をかけてくださっていると感じています。おかげで学生生活は楽しく、充実した日々を送っています。4年間で得た知識と体験を基に、将来は宇宙や物理現象について、たくさんの人にわかりやすく伝え、宇宙の魅力を広めることができる学芸員をめざしています。そして、それによって、「科学者や技術者になりたい」と思ってくれる人材を少しでも増やすことができたいです。

専門とする学芸員になりたいと思うようになりました。

理工学部物理学科入学をめざし 新しい入試制度にトライ

甲南大学を選んだ大きな理由は、理工学の分野が充実しており、2026年度には現在の物理学科が宇宙物理学・量子物理学科に改組されることもあり、数ある大学の中でも本格的に天文学と宇宙物理学を学べる環境があるからでした。

また、私が受験するタイミングで、これらの時代における理系の女性研究者などを育成するために、女子特別推薦型という公募制推薦入試制度ができることを知り、ぜひその入試制度にトライしたいと考えるようになりました。

オープンキャンパスに参加した際には、学生と教員の距離が近いことが、理系のある他大学と比べてもより強く感じられ、このように先生方が親身に指導してくださる環境で

あれば、実験や観測などもグループワークで楽しく行えるだろうと思い、ますます甲南大学の物理学科で学びたいとなりました。

学芸員をめざして 実験と観測に励む日々

学芸員という職業は、自分が考えた企画などをプレゼンテーションする能力や、人に伝える力・聞く力が必要とされます。これから大学でさまざまな実験結果の報告会や、学生同士や教員と議論を深めながら行う授業で、学芸員に必要とされる能力の土台を作っていきたいと思っています。

今は、これから宇宙の成り立ちや量子力学を学ぶうえで必要な物理学の知識を、高校で学ぶ内容からより深く学んでいます。その中でも、遠心力など物理学の基本法則を実験で再現・観測する授業が面白いです。大学の授業は、高校の物理に比べると段違いにむずかしいのですが、講義や実験を通してそれらを理解できたときに、学ぶことの楽しさを感じています。星や銀河の形成など、宇宙の理論的な成り立ちについて、さらに深く研究していきたいです。

宇宙を解き明かしながら、 私は未来へ歩いていく

理工系の女性研究者や技術者を育成することを目的とした、公募制推薦入学試験〔女子特別推薦型〕が甲南大学の2025年度入試で初めて実施されました。川上小春さんは、理工学部物理学科に合格をはたしました。中学生のころから宇宙の仕組みに心を躍らせていたという根柢からの「リケジョ」である川上さんに、これまでの軌跡とこれからの夢を語ってもらいました。

小さいころから 自然の不思議を知りたくて

小さいころから、海の波はなぜ起こるのか、虹はなぜ七色なのかなど、さまざまな自然現象にいつも興味をもっていました。家族でよく行っていたキャンプで、普段は見ることのできないような星空を見ながら、それぞれの星は地球から遠く離れていて、その先はどうなっているのかなど、宇宙の仕組みや誕生といった未知の事柄について想像する楽しさを覚えたことが、理系分野に興味をもった大きなきっかけです。中学生のときには、理科の実験で、ものごとの背景にある物理現象について学ぶことに夢中になっていました。

高校では物理が大好きで、卒業研究では天の川について、本やインターネットを使って調べました。また、家族と科学館へ行った際に学芸員の方のお話がとても面白く、さらに、多くの人に物理学など科学の楽しさを伝える企画を立案することが学芸員の重要な仕事の一つだと知り、将来はぜひ物理学を

宇宙や物理の面白さを 一人でも多くの人に伝えたい



高校3年生で手にしたジュニアオリンピック(第17回全日本ジュニアテコンドー選手権大会)の金メダルと、2024年リンクステコンドーフェスティバルの銀メダル。

絶対に負けられない
試合を制して

そんな中で鍛錬を続けていると、いくつかの大会で上位入賞するようになり、高校3年生ではジュニアオリンピックで優勝することができました。高校生以下のジュニア階級では最後となる大会でトップに立てたこと。また、決勝戦の相手が、過去に試合で何度か顔を合わせたことのある仲の良い子で、お互いに敬意を払いつつも「絶対負けられない」とも思っていたので、喜びもひとしおでした。さらに、大学入学後すぐの5月に行われた全日本テコンドー選手権大会では、西日本地区の1位になることができました。

甲南大学を選んだのは、テコンドーの練習に通うスポーツクラブとキャンパスが近いことも理由の一つです。通学にはトレーニングのために自転車を使い、クラブと岡本キャンパスまでの20分ほどを毎日往復しています。文学部歴史文化学科で学ぼうと決めたのは、小さいころから妖怪が好きで、民俗学の書物に興味があったからです。オープンキャンパスで歴史文化学科専用の図書室を見た際に、蔵書の充実ぶりに圧倒され、ここで学びたいと強く思いました。

スポーツ推薦「自由枠」が
人生の可能性を広げた

甲南大学にはテコンドーのクラブはないので、スポーツ推薦入試は出願できないと思っていたのですが、学外での競技活動でも数年前に

甲南大学 初
スポーツ推薦入試「自由枠」入学者
(競技種目：テコンドー)

なかはま ゆうか
中濱 優佳さん

文学部 歴史文化学科 1年次



体力と気力の淵で闘う
勝ち抜きたい私が、いる

創設された「自由枠」なら出願できることがわかり、コーチと手を取り合って喜んだことを覚えています。あとで聞くと、「自由枠」にテコンドーで出願したのは自分が初めてと知りました。



テコンドーは体重による階級があるため、激しい減量を行うこともあります。私は身長165cmなのですが、46kg級の中では日本国内なら背が高いほうなので、その階級で試合できるのは、蹴りのリーチ差などからいってもかなり有利です。体重超過は厳禁なので減量によって体重をギリギリまで落として闘うと、3ラウンド目まで試合が続いたときは立っているのがやっとになります。また、減量では水抜きが特につらく、喉が乾いて夜も寝られなくなることがあります。体力と気力がギリギリの勝負になってきますが、私は、気合と根性で他の人と僅差をつけて、ここまでこれたのかなと思います。減量のための食事制限には、家族にもかなり協力してもらっているので、とても感謝しています。

甲南大学では、スポーツの資質と能力を有する学生を迎えるため、スポーツ能力に優れた者の推薦入学試験を実施しています。中濱優佳さんは、初のテコンドー競技での入学者。高校3年生でJOCジュニアオリンピックカップ第17回全日本ジュニアテコンドー選手権大会で優勝し、大学入学後も2025年5月の全日本テコンドー選手権大会で西日本1位に輝いています。競技にかける情熱と学生生活について語っていただきました。

中学生から、男子にまざって
「闘う女子」だった

中学生のときには、柔道部に入って男子にまざって練習をしていました。そのまま楽しく続けられればよかったのですが、そのあとすぐにコロナ禍に見舞われて、部活が中止に。運動ができなくてフラストレーションがたまっていたときに、たまたま立ち寄ったスポーツクラブで出会ったのがテコンドーという競技でした。

体験してみると、「蹴り」を主体とした格闘技で、攻守の入れ替わりの激しさが面白く、技が決まったときにはそれまで経験したことのない気持ちよさがあって、そのまま続けることにしました。あとから知ったのですが、そのスクール生のほとんどが幼少期から始めたという強者ぞろいで、中高生は全国大会で常に上位入賞の名門スクールでした。それがわかったときは、今から始めてみんなについていけるかと焦りましたね。

甲南大学の代表という気持ちで
2025年秋の闘いに臨む

2025年秋には、大学生だけで行われる全日本学生テコンドー選手権大会に初めて出場します。甲南大学のテコンドー部としてはないですが、甲南大学の代表という気持ちで闘いたいと思います。なんとしても、上位入賞をしたいと思い、練習に汗を流す日々です。テコンドーを通じて、目標をしっかりと定めて行動力をつけることの大切さを学びました。そして、結果を出すことが、次への自信につながることも知りました。また、今ある自分を支えてくれている家族や関係者の方々への感謝を忘れてはならないことにも改めて気づかされました。それらを、今後の学生生活や社会に出るからの人生の指標にしていきたいと思っています。



コンクール前の食事は唐揚げ。揚げ物の油分が喉のうらおいにいいらしい。



小学5年生で歌の楽しさを知り、高校2年生から声楽を本格的に学び始める

小さいころから音楽に合わせて踊るのが好きで、ダンスやバレエを習っていましたが、同じ教室には男子が少なく、そのまま続けるかどうか迷っていました。そんなとき、友人から歌の教室に誘われ、ミュージカルの歌の発表会を観に行ったのが、歌との出会いです。「歌ってすごい」と感動し、自分には無理かもしれないと思いながら体験レッスンを受けました。先生には「3年続けて素質がなければ、はつきり伝えます」と言われ、「まずは3年間、やってみよう」と、歌のレッスンを始めました。

レッスンは楽しく、中学3年生で初めてコンクールに挑戦。初舞台は緊張でお腹が痛くなり、リハーサルでは歌詞を間違えましたが、本番はなんとか歌い切りました。予選・本選を経験し、少しずつ舞台上に慣れたことで、入賞することができました。そのコンクールで「ミュージカル俳優をめざすなら声楽を学ぶといい」と審査員の方に助言をいただきました。調べてみると、憧れている俳優の方々には声楽を学んだ人が多くいました。「自分も歌を極めたい」と思い、本格的に声楽を学ぼうと決めました。

学び始めると楽譜に込められた作曲者の思いや意図を意識するようになり、ただ「歌う」だけのころとは違う自分を感じています。音楽の奥深さに触れ、もっと表現力を高めたいと思い、毎日発声練習や課題曲を練習します。イタリア語の歌曲にも挑戦し、発音や意味を調べながら丁寧に歌い込んでいます。併せてソルフェージュやピアノも学びます。声楽でも、



コンクールのワンシーン。

ミュージカル同様に成長したくて、高校2年生で全日本学生音楽コンクールに挑戦しました。

全日本学生音楽コンクール大阪大会
声楽部門初出場で1位に入賞

声楽を始めてまだ日が浅かったため、正直、自信はありませんでした。毎日の練習を信じて、「いつものように楽しんで歌おう」と精一杯の気持ちでステージに立ちました。なので大阪大会で1位になったときは「何かの間違いでは？」と驚きましたが、本当にうれしかったです。声楽だけではなく、これまでの積み重ねすべてが評価されたような気持ちでした。

全国大会に進むと、大阪大会以上にレベルの高い方々ばかりで、リハーサルの空気もまったく違いました。観客も多く、最初は緊張しましたが、練習を信じて楽しく歌えました。力を出し切ったので、後悔はありません。それよりも全国の出場者の歌声を聴き、自分にはまだまだ

歌という表現を通じて、「自分らしさ」を出せる。歌っているときに一番自分らしくいられる時間のような気がします。そして、歌で心が伝わる喜びは格別です。ある日、ダンス教室で「二本のバラ」を歌ったとき、先生の涙を見て「歌が心に届いた」と実感しました。まだ声楽の入り口に立ったばかりですが、もっと学んで自分らしい歌を届けていきたいです。

中学校への進学の際に、歌とダンスと勉強を両立できる学校を探していて、甲南中学校を知りました。校長先生のお話を聞き「ここで両方がんばりたい」と思いました。甲南では、先生や友人にも恵まれています。先生は「次はどんな挑戦をするの？」と声をかけてくださり、ガラコンサートには校長先生が来てくださいました。活動を応援してもらえる甲南に通えていることが、とてもありがたく、「もっとがんばろう」と思えます。家族もずっと支えてくれていて、家で歌えば間違えもすぐ気づかれるほど、いつも聴いてくれます。感謝の気持ちを感じず、もっと成長して夢をかなえたいです。

歌とダンスで心を動かしたい —— 夢はミュージカル俳優

1947年から続く、歴史ある音楽コンクールの大阪大会において、甲南高等学校初の声楽部門1位入賞を果たし、全国大会に出場した福留颯一さん。歌を始めたきっかけやコンクールのこと、将来の夢についてお話を聞きました。



甲南高等学校 初
全日本学生音楽コンクール大阪大会
声楽部門 高校の部 1位入賞

ふくどめ はやと
福留颯一さん

甲南高等学校 三年生

日本の文化である“墨絵”を 世界へ広めていきたい



PROFILE

墨絵師

いのうえ よしみ
井上 慶美さん

2010年、理工学部生物学科卒業。株式会社ファンケルなど化粧品メーカーの企画・マーケティング部門を渡り歩いた後、墨絵師に転身。SNSでは墨絵パフォーマンスをはじめ、子育て、化粧品企画などを使い分けて発信し、総フォロワー数43万人（2025年9月現在）。

観客の視線が集まる中、大胆に振るう筆の先から現れる龍の姿。着物姿にタスキ掛けで、一発勝負のライブペイントに挑むのは、墨絵師の井上さん。墨絵師として本格的に活動を始めたのは30歳のとき。会社員として働きながら個展や創作活動を続け二足のわらじを履いていたが、36歳で独立。一体なぜ墨絵師に?これまでの経緯や、現在の活動をインタビューしました。

フランス留学がきっかけで 日本文化に目を向けるように

「将来は化粧品の開発にかかわりたい」。理工学部の学生だった井上さんは、そんな思いを抱き、世界的コスメブランドが集まるフランスへ1か月間留学。現地の工場では話を聞かせてもらったとき、逆に相手から日本の技術や文化を称賛されたという。「それまで日本の良さにまったく目を向けてこなかったので、日本文化を知らない自分が恥ずかしかった」。

大学卒業後、化粧品メーカーで働きたがらも、そのことはずっと胸にくすぶっていた。日本文化について身をもって学び、そのすばらしさを世の中へ伝えたい。そう考えて、墨絵を始めた。「白と黒の濃淡だけで表現することが魅力で、その繊細さも日本らしいと思いました」。

20代のころは会社員の傍ら、京都や大阪の路上で墨絵の似顔絵を描いたり、作品を販売していた。当初から着物姿で描いていたというから、路上ではおそらく目立つ存在だったに違いない。現



墨絵のパフォーマンスをSNSで発信。見せ方や伝え方にマーケティングのキャリアが生かされている。

代的なタッチは「墨絵なのにオシャレ」と言われ、買ってくれる人も増えていった。仕事の関係で東京に移ってからは、お台場でも描いた。30歳で個展を開くようになると、創作活動を本格化。会社員との両立が難しくなり、36歳で独立に踏み切った。

「人類みな麺類」プロデュース店の 巨大看板が初仕事に

転機は突然、訪れた。井上さんの活動に興味をもった甲南OBの株式会社亀井堂総本店の社長から、親しい飲食業の社長を紹介していただくことになった。かくして大阪アメリカ村に出店する人気ラーメン店「人類みな麺類」プロデュース店の屋外看板を描くことになる。店のコンセプトが伝わるように、筆のタッチを生かしつつ、和風の下派手な絵柄に仕上げた。この初仕事がきっかけで、依頼をリピートしていただき、別の飲食店からも声がかかるようになる。

現在の活動の軸は、作品づくりのほか、店舗の看板や内装壁画の制作と、イベントやパーティーで行うライブペイントだ。大阪梅田の阪急百貨店やイギリスの高級車ロースロイスの東京ショールーム、東日本大震災後に再建された福島県龍台寺の落慶祝賀会など、依頼があればどこへでも訪れ、観客の前で墨絵を描く。井上さんの墨絵は、金箔や蛍光色を取り入れたり、チャレンジングで従来の概念にとられない。「日本文化を伝えよう

にも、興味をもってもらえなければ始まらない」と考えるからだ。通常であれば、墨絵は余白を生かすことで、濃淡の美しさを引き立てる。しかし、井上さんはあえて余白に市松や麻の葉などの文様を盛り込んでみることも。「伝統文様には、繁栄や健康やかな成長など、一つひとつ意味がある。そんな日本文化も伝えたいから」。

約15年の時を経てフランスへ 今度は日本文化を伝えに

忘れられないライブペイントがある。2024年11月、井上さんはフランスへ飛んだ。エッフェル塔で開かれる茶会とコラボレーションして墨絵を描くために。東京タワーとエッフェル塔の親交から生まれたこのイベントは、資金をクラウドファンディングで募ったが、なかなか集まらず実現不可能かと思われた。しかし、ある日突然、目標金額が達成する。甲南OBの株式会社エイブル&パートナーズ代表取締役会長兼社長が強力に支援してくれたのだ。「おかげで実現できました。本当に感謝しています」。



エッフェル塔でのライブペイント。



現地の方から興味津々な視線を浴びつつ、描き上げた。

ライブペイントでは茶会に合わせ、躍動する「龍」と「虎」を描き上げた。現地の方からも好評で、「日本に行ってみていい」と声が上がった。墨絵を通して日本文化を広めるとい願いが、形になった瞬間だった。

井上さんがここまで歩んでこれたのは、墨絵を学び、日本文化としてどう伝えていくのか、墨絵で目の前の人を喜ばせるにはどうすればいいのか、真摯に向き合ってきたからだろう。そして、応援してくれる人々の存在も大きかった。「振り返れば、甲南大学のネットワークには随分支えられてきました」。初仕事は甲南OBが縁をつないでくれた。フランス留学は奨学金「甲南大学同窓会甲南会チャレンジ基金」で行くことができた。「甲南大学に行つてなければ、今の私はなかったかも(笑)」。

日本文化を発信したい思いは、さらに「日本を元気にしたい」「自分の国にある文化のすばらしさに気づいて、誇りをもつてほしい」と深まっていく。そのためにも墨絵の新たな表現を模索し、描き続けていく。



2025年度 第1回 ソフィア講演会

戦争の時代と私たち ～ジャーナリストに問われるもの～

かもしだ ごう
NHK解説主幹 鴨志田 郷氏

今年度第1回の「ソフィア講演会」を6月10日に開催。武力紛争やテロ、国際社会の対応について、中東や欧米、国連で取材を続けてこられたNHK解説主幹の鴨志田氏に、ご講演いただきました。

鴨志田氏は1993年にNHKに入局し、神戸放送局で阪神・淡路大震災の取材を経験されました。その後、国際部を経て、エルサレム支局、ヨーロッパ総局、アメリカ総局で取材を続け、これまでに中東や欧米、国連などを舞台に、国際紛争やテロ、そしてそれらに対する国際社会の対応について幅広く報道してこられました。

今回の講演では、ガザ地区の深刻な状況に焦点が当てられ、命の危険にさらされながらわずかな食料の配給に頼る人々の姿や、薬も不足し治療もままならない医療現場の実情が語られました。生徒たちは深い衝撃とともに現地の現実を受け止めました。

また、ジャーナリストのあり方について自身の経験に基づき、話されました。「対立の善悪を判断するのではなく、その根源に迫る」「権力者だけでなく市民の声にも耳を傾ける」「相手にできる限り近づく努力を惜しまない」「自分がその地に生まれていたらと想像する」など、実際の現場を取材してきた鴨志田氏ならではの重みのあることばばかりでした。

紛争地ではジャーナリストが標的とされたり、報道の自由が脅かされたりする現状にも触れ、情報があふれる現代においてフェイクニュースやメディアの偏向報道が社会に及ぼす影響について警鐘を鳴らされました。かつて日本も、メディアの扇動によって戦争が正当化され、太平洋戦争へと突き進んでしまった過去があります。「終戦から80年を迎える今、同じ過ちを繰り返さない覚悟が求められている」ということばで、講演は締めくくられました。生徒たちにとっては、報道の役割や世界の現実について深く考える貴重な機会となりました。

世界の現実を報道する意義 ジャーナリストのあり方

鴨志田氏は1993年にNHKに入局し、神戸放送局で阪神・淡路大震災の取材を経験されました。その後、国際部を経て、エルサレム支局、ヨーロッパ総局、アメリカ総局で取材を続け、これまでに中東や欧米、国連などを舞台に、国際紛争やテロ、そしてそれらに対する国際社会の対応について幅広く報道してこられました。

今回の講演では、ガザ地区の深刻な状況に焦点が当てられ、命の危険にさらされながらわずかな食料の配給に頼る人々の姿や、薬も不足し治療もままならない医療現場の実情が語られました。生徒たちは深い衝撃とともに現地の現実を受け止めました。

また、ジャーナリストのあり方について自身の経験に基づき、話されました。「対立の善悪を判断するのではなく、その根源に迫る」「権力者だけでなく市民の声にも耳を傾ける」「相手にできる限り近づく努力を惜しまない」「自分がその地に生まれていたらと想像する」など、実際の現場を取材してきた鴨志田氏ならではの重みのあることばばかりでした。

葉田 順治氏よりトレーニング機器一式を 寄贈いただきました。

本校卒業生でエレコム株式会社代表取締役会長の葉田氏より、トレーニング機器のご寄贈を賜りました。

今回の寄贈は、一個人として「母校の後輩のために」との温かいお気持ちから実現したもので、トレーニングマシン一式に加え、ゴルフ練習用「トラックマン」と操作に必要なWiFi環境の整備もご提供いただいております。

総額1800万円相当となる最新の機器が整備され、生徒たちは日々意欲的にトレーニングに取り組んでいます。心より感謝申し上げますとともに、大切に活用し、生徒たちのさらなる競技力向上と心身の健やかな成長に努めてまいります。



HEART GLOBAL

—— 歌とダンスでつながる、かけがえのない1日 ——

世界各国から集まった「HEART GLOBAL」のキャストとともに、一つのステージを作り上げるワークショップを開催。ことばの壁を越えてつながる喜びを体感!



音楽は世界の共通言語！ 心が通じ合う、みんなが一つになれる

5月1日、「音楽とダンスを通じて、ことばの壁を越えた絆を育む」ことを目的とした国際的な教育プロジェクト「HEART GLOBAL」が開催されました。本校での開催は約10年ぶりです。中学2年生の生徒たちが海外からのキャストとともに、音楽を通じた表現活動に取り組みしました。

ワークショップの冒頭、明るくエネルギッシュなキャストたちの笑顔に迎えられた生徒たちは、最初こそ照れや恥ずかしそうなそぶりでしたが、歌やダンスの練習を通じて、ことばよりも先に届く「まなざし」や「ジェスチャー」の温かさに触れ、少しずつ緊張もほぐれていきました。みんなで作り上げていく連帯感を楽しめるようになり、仲間との呼吸や互いに認め合うしぐさといった大切な感覚を共有していきます。そこには「うまくできるかどうか」ではなく、「本気でつながろうとする姿勢」がありました。

ワークショップを締めくくる発表会では、中学2年生と担任団、キャストが一丸となり、心を込めたパフォーマンスを披露しました。観客席では後輩の1年生たちも自然と立ち上がって体を揺らし、歌い、踊りながらステージと一体に。まさに、音楽が心をつないだ瞬間でした。

生徒たちはこの経験を通じ、英語や異文化への関心を高めるだけでなく、「心を開くこと」「相手を信じて一歩踏み出すこと」のすばらしさを、全身で学びました。ことばの壁を越え、心で通じ合うことの喜びが、生徒一人ひとりの表情や動きにはつきり表れていたように思います。

音楽の力、そして人とつながる力の大きさを、改めて実感した一日となりました。



X線・ガンマ線天文学の最前線

夜空に輝く星々は、私たちの目に届く光によって見るることができます。しかし、宇宙には地上からは目視することのできない天体が無数に存在しています。天体観測の人工衛星プロジェクトを何度も経験した田中孝明准教授に、X線・ガンマ線で見える天体の姿や人工衛星プロジェクトの舞台裏を伺いました。

可視するところできない天体を調査するX線・ガンマ線天文学

太陽や星などの目に見える光は可視光と呼ばれています。その可視光だけではとらえきれない宇宙の天体や現象をX線やガンマ線で観測し、探究するのが私の研究分野であるX線・ガンマ線天文学です。

X線天文学は、1962年にイタリア出身の天体物理学者リカルド・ジャコーニ氏たちがロケットにX線観測装置を搭載し、宇宙を観測したことが始まりです。当時は太陽からX線が放出されていることが知られていましたが、他の天体からは遠すぎて検出できないと考えられていました。しかし、実際には太陽系外の強力なX線源の観測に成功。天体物理学への先駆的貢献で、ジャコーニ氏は2002年にノーベル物理学賞を受賞しています。

同じ光であっても地上まで到達して目に見える可視光の波長に比べ、X線やガンマ線の波長は短い。地球の大気に吸

収されてしまい、地上まで届きません。しかし、人工衛星にX線・ガンマ線観測装置を搭載すれば、可視光では見られないさまざまな天体の観測が可能です。

天体の温度とそれが主に放射する光の波長は反比例の関係にあり、温度が高いほど放射の波長は短くなります。主に可視光で輝く太陽の表面温度は6千度ですが、ずっと波長の短いX線を放出する天体は数千万〜1億度となります。X線で輝く天体の代表例が、ブラックホールです。ブラックホール自体は光を吸収するため観測できませんが、そこへ吸い込まれるガスが数千万度にもなり、X線を放出。そのX線を分析することでブラックホールの質量や自転の有無まで知ることができます。

数百億円規模の研究費がかかる人工衛星プロジェクト

X線やガンマ線の観測には、人工衛星を打ち上げますが、搭載する観測装置は研究者たちが自らの手で開発します。

予測できなかった事故が宇宙で実際に起きたのは、X線天文衛星「ひとみ」でした。2016年2月の打ち上げからわずか数か月後に通信が途切れ、数百億円をかけた国家プロジェクトが短期間で終わってしまったことは、世間にも大きな衝撃を与えました。だからこそ、「ひとみ」の後継となる「XRISM(クリズム)」の開発は、研究者たちにとって譲れない再挑戦だったのです。

世界で初めて発見された銀河団の中心部に存在する高温ガスの流れ

2023年に打ち上げられたX線分光撮像衛星「XRISM」では、軟X線撮像装置XtendのX線CCDカメラ開発チームのメンバーになりました。Xtendは、満月がすっぽり入るぐらいの広い視野でX線画像を取得できる装置であり、世界中の研究者から多くの期待が寄せられています。開発から衛星搭載後の試験まで、JAXAやNASA、他大学のメンバー、宇宙機器に関するメーカーの方々と協力して進めました。「XRISM」は2025年に世界で初めて、多くの銀河が集まる「銀河団」の中心部にある高温ガスの流れを詳しく観測することに成功しました。この観測結果は、銀河団が衝突や合体で進化していく過程を示す証拠であり、銀河団を含めたさまざまな天体の形成や進化を知るうえで重要な手がかりとなるはずです。

2005年に打ち上げたX線天文衛星「すざく」は、当時大学院生だった私が初めて開発にかかわった衛星です。その後、自身の研究である超新星残骸についてより多くの観測データを求め、アメリカ・スタンフォード大学へ渡り、2008年にNASAが打ち上げたガンマ線天文衛星「フェルミ衛星」のプロジェクトに参加しました。

人工衛星の開発は、国際的な宇宙機関や大学など、数多くの研究機関が参画する巨大プロジェクトです。基礎開発から始めれば、完成までに数十年もの歳月と莫大な費用がかかります。宇宙は想定外のトラブルが発生する過酷な環境で、一度打ち上げた人工衛星に不具合が生じてても、必ずしも地上から修復できるとは限りません。そのため、搭載する観測機能だけではなく、真空状態や打ち上げ時の衝撃への耐久性など、徹底した試験を行います。試験の過程で問題が見つかれば、原因を究明し、さまざまな角度から検証と議論

「XRISM」の観測データを基に超新星残骸の謎に挑み続ける

私がこれまでで最も注力している研究が、超新星残骸です。超新星とは星が大爆発を起こした現象であり、超新星残骸は爆発の後に残された星雲状の天体です。X線やガンマ線による観測を通じて爆発のメカニズムや、宇宙線と呼ばれる高エネルギー粒子の生成などの解明に取り組んでいます。

1572年に爆発した超新星(通称「ティコの超新星」)の残骸は、約450年を経た今も直径20光年ほどの範囲に広がっており、X線で観測すると複雑で美しい構造が浮かび上がります。このような天体を調べることで、宇宙線がどんな機構でどのように高エネルギー粒子が放出されるのかなど100年もの間、未解明の謎に挑んでいます。

宇宙の研究は、しばしば「社会にどのような役に立つのか?」と問われます。私自身は、研究そのものが即座に社会に還元されるとは思っていません。しかし、宇宙観測の技術は他分野にも応用されています。たとえば福島第一原発事故のあと、ガンマ線検出器が放射線の可視化に使われ、除染作業に貢献しました。また、医療分野では、がんの放射線治療などにもガンマ線検出の技術が使われています。

宇宙は広大で奥深く、まだまだ解明されていない謎が無数に存在しています。と

きには予想を超えるような事象に出合うこともある。それが宇宙の面白さであり、その謎に挑み続けることが私たち研究者の使命だと考えています。



profile
理工学部 物理学科 准教授
たなか たかあき
田中 孝明

東京大学理学部物理学科卒業。東京大学大学院理学系研究科物理学専攻博士課程修了。スタンフォード大学カブリ素粒子天文学物理・宇宙論研究所、京都大学大学院理学研究科を経て、2021年4月より現職。日本天文学会、日本物理学会所属。専門分野:X線天文学、ガンマ線天文学、高エネルギー宇宙物理。

2025年度 新任教職員紹介

[2025年7月1日現在]

よろしくお願いいたします！



文学部社会科学
金 セツピョル 講師
2025年4月1日付
[専門分野] 文化人類学



経済学部
宮尾 龍蔵 教授
2025年4月1日付
[専門分野] マクロ経済政策、金融



経済学部
奥山 鈴香 講師
2025年4月1日付
[専門分野] 産業組織論



経営学部
中溝 晃介 教授
2025年4月1日付
[専門分野] 財務会計



経営学部
井上 定子 教授
2025年4月1日付
[専門分野] 国際会計論



知能情報学部
田中 一晶 准教授
2025年4月1日付
[専門分野] ヒューマンロボットインタラクション



全学共通教育センター
岡邑 衛 准教授
2025年4月1日付
[専門分野] 教育社会学、教師教育、特別活動、生徒指導



全学共通教育センター
星野 映 講師
2025年4月1日付
[専門分野] スポーツ科学



高等学校・中学校
吉田 有宇哉 教諭
2025年4月1日付
[専門分野] 社会



高等学校・中学校
榎原 雄樹 教諭
2025年4月1日付
[専門分野] 保健・体育



高等学校・中学校
藤原 泰雅 教諭
2025年4月1日付
[専門分野] 英語



高等学校・中学校
前田 航世 教諭
2025年4月1日付
[専門分野] 英語



高等学校・中学校
OCASIO Daniel L.
外国人英語担当コーディネーター
2025年4月1日付
[専門分野] 英語



高等学校・中学校
川下 晃潤 任期付常勤講師
2025年4月1日付
[専門分野] 数学・情報



キャリアセンター
齊藤 夏輝 専任職員
2025年4月1日付



管財部
田中 孝知 専任職員
2025年4月1日付



理工学部・知能情報学部事務室
葉山 夏帆 専任職員
2025年4月1日付



監査部
毛利 彰伸 専任職員
2025年7月1日付

2024年度 退任教職員紹介

[2025年4月30日現在]

長い間ありがとうございました



マネジメント創造学部
上村 一樹 准教授
2025年3月31日付



知能情報学部
田中 雅博 教授
2025年3月31日付



全学共通教育センター
石井 昇 教授
2025年3月31日付



全学共通教育センター
宮川 聡 教授
2025年3月31日付



全学共通教育センター
胡 金定 教授
2025年3月31日付



全学共通教育センター
西川 耕平 教授
2025年3月31日付



全学共通教育センター
鳩見 耕一 教授
2025年3月31日付



高等学校・中学校
半田 篤 教諭
2025年3月31日付



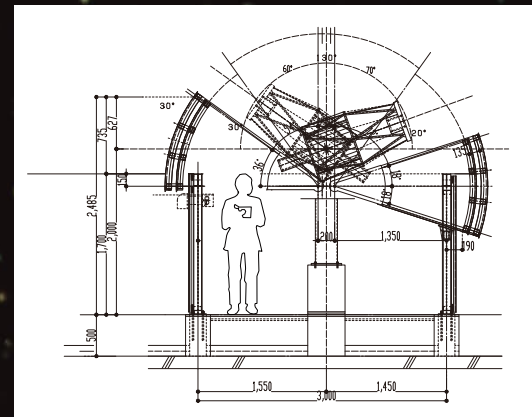
高等学校・中学校
高田 恭一 特任教諭
2025年3月31日付



理工学部物理学科
松田 洋平 准教授
2025年4月30日付



高等学校・中学校
池田 英樹 教諭
2025年3月31日付



天体観測室（イメージ）

キャンパス内に常設の天体観測施設があればと長年思っていました。既存の校舎の屋上には法律などの制約により設置することはできませんでした。したがって、新理系棟の建築は千載一遇のチャンスで、棟の完成と同時に天体観測室が誕生します。

口径約40cmの 反射型望遠鏡を備える ドーム型天体観測室

2026年度、物理学科は宇宙物理学・量子物理工学科へとリニューアルされます。学科の半数の研究室では宇宙にかかわる研究、たとえば太陽系から遙かに遠い天体の文字通り宇宙サイズの広い領域で起こる現象、高いエネルギー領域の物理現象、地球上では再現し得ない高い温度、密度の物質の性質などを研究しています。

宇宙物理学・量子物理工学科の 研究対象である 天体現象の「現場」を見る

天体観測室の内部には、口径40cm程度の反射型望遠鏡とそれを駆動する架台を導入します。これまでは小型の天体望遠鏡を屋上まで数人がかりで運び出し、望遠鏡を設置して観測装置の準備が整うまでに長い時間がかかっていました。しかも天体観測は、どんなに計画や準備をしていても、空が曇れば見えなくなつて中止です。常設の天体観測室があれば、観測条件が整えばすぐに観測を始められ、学生たちの観測機会を格段に増やすことができます。

さらに、突発的な宇宙現象にもリアルタイムで対応できます。超新星爆発などの現象がキャッチされた際に、世界中の観測機関が連携して一斉にデータを収集する「マルチメッセンジャー観測」にも参加できます。観測アラートが発信されたとき、手元に装置があり即座に対応できる体制は、大きなアドバンテージとなります。

これらの現象の微視的な姿は地球からは直接観測することはできませんが、それらすべてを含む宇宙という物理現象の「現場」を可視光による観測を通じて自分の目で「見る」体験は、現象の理解と探究心を深めるうえで大切なことだと思います。また、天体の物理現象の研究には、観測装置の開発や調整といった工学的スキルも必要です。天体観測施設がそばにあり、いつでも使えることは装置の開発や設計においても、装置の動作テストを行うなど大きな助けになります。



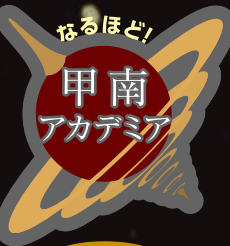
profile
理工学部 物理学科 教授
あきむね ひでとし
秋宗 秀俊

京都大学理学部物理第二教室卒業、京都大学理学研究科物理第二専攻博士課程単位取得満期退学、博士（理学）。大阪大学核物理研究センター、日本原子力研究所先端基礎研究センターを経て、1999年4月より甲南大学。2012年4月より現職。日本物理学会所属。専門分野：実験核物理、原子核の巨大共鳴、原子核のクラスター状態、原子核の弱い相互作用に対する応答、加速器を用いた核反応、高エネルギー粒子の検出。

「現場」を自分自身の目で見るリアルな体験が得られる。新しい天体観測室には、学生の探究心を強く後押ししてくれる施設となることを期待しています。



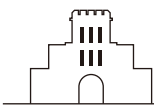
現在使用している
天体望遠鏡
MEADE LX200GPS



NEWS

2027年、新理系棟屋上に 甲南大学初の天体観測室が誕生

進化型理系構想の一環として、2027年に完成予定の新理系棟。その屋上に、宇宙の現象を観測するドーム型天体観測室が設置されます。この新たな施設が、学びや研究にどのように生かされるのか、秋宗秀俊教授に伺いました。



「オール甲南の集い2025」の開催（10/19）

甲南ファミリーが母校へのホームカミングのひとつを楽しむ「オール甲南の集い2025」(甲南学園・甲南大学同窓会共催)を10月19日(日)に開催します。iCommons と甲友会館において、国内外の甲南会関係者が集まる「世界甲南会」や、文化会音楽団体の OB・OG が参加し寮歌を披露する「第19回甲南歌唱祭」をはじめ、スペシャルゲストとして元プロ野球選手の鳥谷敬氏による講演会、神戸を拠点に海外でも活躍する女性アカベラグループ「宝船」のライブをお楽しみいただけます。全体交流会ではお楽しみ抽選会も実施します。

昼食時には、クラブやゼミなどの仲間で旧交を温めていただく「ホームカミングランチ」を実施します。多くの甲南ファミリーのご参加をお待ちしています。

日 時 10月19日(日) 11:00～15:30 会 場 岡本キャンパス



元プロ野球選手・
野球解説者 鳥谷敬氏



アカベラグループ「宝船」

キッズフェスティバルの開催（12/14）

2017 年度から開催しているキッズフェスティバルは、本学の施設を活用して、地域のみなさまに感謝の気持ちをお伝えすることを目的に、小学生以下のお子さまを中心としたご家族で楽しんでいただけるイベントになります。

第6回にあたる今年度は、「なんぼーサンタのクリスマスパーティーによこそ!～かぞくですぐすスペシャルな1日～」をテーマに、これまでご好評いただいた体験型・ものづくりのプログラムをはじめ、季節を感じられるプログラムやキャンパス内を回っていただく周遊型のプログラム、地域の企業さまにも協賛いただき実施するプログラムをご用意いたします。当日は家族みなさまと一緒に、甲南大学で特別な1日をお過ごしください!

日 時 12月14日(日) 10:00～15:30

会 場 岡本キャンパス



キッズフェスティバル
HP

第61回摂津祭の開催（11/1～3）

甲南大学祭「第61回摂津祭」を11月1日から3日に開催します。テーマは「秋麗 ～百花繚乱 甲南の舞～」です。このテーマには、「澄み渡る秋空のように心地よく穏やかな雰囲気の中で、学祭にかかわるすべての人が、それぞれの個性や想いを自由に表現し、まるで色とりどりの花が咲き誇るように一つの場を創り上げることで、調和と多様性の美しさを感じてほしい」という思いが込められています。各学生団体等による模擬店や展示、パフォーマンス、子供向けテーマパークなど多数のイベントを開催し、幅広い世代の方々が青春を味わえる3日間です。また、バンド「ヤングスキニー」による音楽ライブ、ビンゴ大会、参加者投票で決定する MG-1 グランプリ(模擬ワングランプリ)を開催します。詳しくは摂津祭の公式ホームページにてご確認ください。

日 時 11月1日(土)・2日(日) 10:00～17:00
11月3日(月・祝) 10:00～15:00

会 場 岡本キャンパス



摂津祭公式
HP

KONAN 未来サポーターズ事業実施状況について

2024 年度 合計寄付金額 **30,335,697 円** ※累計 78,387,456 円 [2022 年 10 月 1 日～2025 年 3 月 31 日]
[2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日]

KONAN 未来サポーターズ制度が始まって3年が経ちました。みなさまからのあたたかいご支援に厚く御礼申し上げます。頂戴したご芳志により、2024 年度も大学、中高それぞれに多くのサポーターズ事業を実施させていただくことができました。学生からはご寄附いただいた方々への感謝のことが多く集まっています。2024 年度事業実施状況の詳細はホームページにてご確認ください。

■2024年度実施事業

大学			高等学校・中学校		
奨学金・奨励金支援	経済的に困難な学生への優秀者奨励金	課外活動支援	クラブ活動奨励金	奨学金・奨励金支援	KONAN 未来サポーターズ寄付金奨学金
学生・生徒プロジェクト支援	学生コーディネーター ユニフォーム&のぼり旗による訴求力向上 海外リカレント研修(ベトナム)	地域連携活動支援	阪急西宮ガーデンズ連携プロジェクト おしゃれビクニック企画	学生・生徒プロジェクト支援	生徒の諸活動の活性化推進支援
理系学生に対する教育研究支援	アクティブラーニング型教室における備品の充実について 未来を担う学生へ～学長から贈る言葉～における彩りの充実化	図書整備支援	図書館資料充実化事業	理系学生に対する教育研究支援	サイエンス・ラボの特色化援助
教育・研究活動支援	甲南大学ビデオCMコンテスト 9号館1FロビーMTGスペースの充実化 教育職員免許状の取得を目指す学生の支援	中高大一貫教育推進支援	中高大一貫教育プログラムの充実	教育・研究活動支援	放課後学習会の充実化支援
		キャンパス整備支援	SDGsにつながるウォーターサーバー(冷水器)の設置	国際交流支援	海外大学進学チャレンジ支援
		リカレント教育支援	金融リテラシー教育プログラム プレ開講	課外活動支援	寄付金指定クラブの活動支援
		学園資料整備事業	学園資料整備事業	キャンパス整備支援	小グラウンド内の照明設備の整備支援



9号館1Fロビー
MTGスペースの充実化



学生コーディネーター
のぼり旗による訴求力向上



小グラウンド内の
照明設備の整備支援

KONAN
未来サポーターズ
HP



令和7年度入学宣誓式を挙行

2025 年 4 月 1 日、令和 7 年度入学宣誓式を岡本キャンパス講堂兼体育館で挙行し、2,156 名の学部・学環生および 103 名の大学院生が甲南での学生生活をスタートさせました。

入学宣誓式は、第 14 回(昭和 42 年度)から第 15 回(昭和 43 年度)の卒業生を招待し、ご父母・ご家族の方とともに式典の様子をご覧くださいました。

また、当日は新歓祭が開催され、新入生を歓迎した華やかな一日となりました。



令和7年度学位記授与式のご案内

令和 7 年度学位記授与式は、2026 年 3 月 25 日に岡本キャンパス講堂兼体育館で行います。

日 程 2026 年 3 月 25 日(水)

会 場 [卒業生]
岡本キャンパス講堂兼体育館

[ご父母・ご家族のみなさま]

岡本キャンパス講堂兼体育館 2 階席(約 850 席程度) / 岡本キャンパス 10 号館ライブビューイング会場

※講堂兼体育館 2 階席は、先着順となっております。満席となりましたら、10 号館ライブビューイング会場にてご視聴いただけます。なお、学内では Wi-Fi に接続し、お手持ちのデバイスでもライブ配信をご視聴いただけます。



第 1 部 10 時 00 分～11 時 00 分(9 時 30 分開場)

(対象学部・研究科) 文学部、理工学部、知能情報学部、マネジメント創造学部
フロンティアサイエンス学部、人文科学研究科、自然科学研究科
フロンティアサイエンス研究科

第 2 部 14 時 00 分～15 時 00 分(13 時 30 分開場)

(対象学部・研究科) 経済学部、法学部、経営学部、社会科学研究科

◎詳細は大学ホームページ(2026 年 3 月上旬ごろ掲出予定)をご確認ください。

甲南大学 2026 年度入学試験について

公募制推薦【教科科目型】は、筆記試験と出願書類で総合的に合否判定を行う総合型選抜として 2025 年 11 月 8 日に実施します。一般選抜試験は、前期日程を 2026 年 1 月 30 日～2 月 1 日、4 日、5 日、中期日程を 2 月 17 日、18 日に実施します。共通テスト利用型では、より受験しやすいように一部学部において制度を拡充しています。

2026 年 4 月から理工学部において、「環境・エネルギー工学科」を新設するとともに、物理学科を「宇宙理学・量子物理工学科」、機能分子化学科を「物質化学科」にそれぞれ再編し、生物学科を加えた 4 学科体制へ進化します。

各入学試験の詳細は右記の入試情報でご確認ください。



入試情報はこちら

2026 年度社会人対象プログラムの受講生募集について(11/1～)

リカレント教育センターでは、社会人の学びなおしのためのリカレント教育プログラムを展開しています。2026 年度に開講するのは「人生 100 年時代の学びプログラム」「グローバルリテラシー教育プログラム」「金融リテラシー教育プログラム」で、受講期間は 2026 年 4 月から約 1 年間です。受講料・受講方法・募集定員などはプログラムにより異なりますので、各プログラムの詳細については、下記の募集情報からご確認ください。

人生100年時代の
学びプログラム

岡本キャンパス(平日開講)



グローバルリテラシー
教育プログラム

岡本キャンパス(土曜開講)



金融リテラシー
教育プログラム

国内外どこからでも参加できる
オンライン受講プログラム



甲南大学には 就職に強い理由がある。

就職率 **98.9%**

・文学部 98.6%	・経済学部 99.1%	・法学部 98.2%
・経営学部 98.8%	・マネジメント創造学部 99.4%	
・理工学部 99%	・知能情報学部 100%	
・フロンティアサイエンス学部 100%		

甲南大学の学生に対する社会からの評価は、高い就職率に表れています。教員や職員はもちろん、社会の第一線で活躍される卒業生のご協力を得て、オール甲南ネットワークで、学生一人ひとりの可能性を引き出しています。

※「就職率」は就職希望者に占める就職者の割合を指し、就職者を就職希望者数で除したものとします。 ※「就職希望者」は卒業年度中に就職活動を行い、大学を卒業後速やかに就職することを希望する者を指し、卒業後の進路として「進学」「家事手伝い」「資格取得」などを希望する者は含みません。 ※2024 年度実績

オール甲南で全面バックアップ

進路把握率 **99.6%** 個別相談件数 **6,350** 件/年 支援プログラム数 **246** 回/年

職員

就職に関する個別相談などのサポート



・キャリアセンター
・職員キャリアサポーター
・教職教育センター

教員

授業を通して進路を考えるサポート



・キャリアデザイン系科目

内定者

就活の経験を生かしてサポート



・甲南 OBF
(内定学生による就職支援団体)

卒業生

仕事や働き方のリアルを語ってサポート



・OB・OG 懇親会



ビズリーチ・キャンパス for 甲南大学

大学公認の OB・OG 訪問ツールとして、株式会社ビズリーチが運営する「ビズリーチ・キャンパス」を導入しています。このツールでは、アプリ内のメッセージ機能や通話機能を通じて、オンラインで OB・OG 訪問が可能です。さまざまな業界・企業でご活躍されている卒業生の方々から直接お話を伺う機会は、学生にとって進路選択の大きな助けとなります。卒業生のみなさまには、ぜひ本ツールにご登録いただき、学生のキャリア支援にご協力をいただけますと幸いです。

ビズリーチ・キャンパス



OB・OG のみなさま、
ぜひ、ご登録をお願いします

問い合わせ 甲南大学 キャリアセンター E-mail ps@adm.konan-u.ac.jp

就活最前線

甲南大生の就活事情と オール甲南ネットワークによるサポート体制

ミディアムサイズの大学の特徴を生かして、一人ひとりの学生に手厚いサポート

近年の就職活動は「早期化・長期化・二極化」が進んでいます。3 年次の春ごろから準備を始め、夏休みには企業や自治体を実施するインターシップに参加する学生も多くなります。また、秋以降もインターシップやオープンカンパニー（企業説明会など、短期間のプログラム）が本選考まで継続して実施されるため、就活が長期化する傾向が見られます。政府指針では 4 年次の 6 月に選考解禁と定められているため、1 年以上にわたって就活を続ける学生も少なくありません。こうした状況に対応して、早期から動く学生には、各業界の特徴などを理解するための業界別セミナーや、インターシップの選考に向けた書類対策、個別相談や面接練習などを通じて、継続的な支援を行っています。一方で、さまざまな事情から就活の開始が遅れる学生や、動き出しに慎重な学生もいます。こうした学生に対応するため、キャリアセンターが主催する就職支援プログラムを開催時期を変えて複数回実施するほか、教員との協働によるサポートなど、適切なタイミングで背中を押すよう心がけています。

キャリアセンターでは国家資格「キャリアコンサルタント」の有資格者を複数名配置し、学生が随時キャリアに関する個別相談を受けられる体制を整えています。模擬面接や履歴書・エントリーシートの添削といった個別支援に加え、就活に役立つ各種ガイダンスや対策講座などのイベントも定期的に開催しています。その他、特長的な取り組みとして、2 年次を対象に 1 泊 2 日で東京に拠点を置く企業を訪問する「企業訪問ツアー in TOKYO」を開催し、早い段階から学生が働く環境を体感し、将来の進路選択やキャリア意識の醸成につながるよう支援しています。

甲南大学の卒業生ネットワークによる就活支援にも力を入れています。OB・OG 懇談会をはじめ、年間を通じて複数回、交流イベントを開催しており、さまざまな分野で活躍の卒業生のお話を直接伺うことで、仕事内容や働き方をリアルに知る機会となっています。さらに本学では「ビズリーチ・キャンパス」を公

認化し、オンラインで卒業生とつながる仕組みを取り入れていきます。これによって、学生が時期や場所にとらわれずに自身の関心に沿って OB・OG 訪問ができ、進路選択や業界理解を深めることが可能となっています。

キャリアセンター所長
きなり ゆうすけ
木成 勇介 教授





文学部 社会学科 4年次
くすもと かりん
楠本 花梨さん
三井住友銀行
オペレーション・プロフェッショナル
コース内定



京セラ株式会社
電子部品事業本部
プロダクトマーケティング部
ほんま しんご
本間 新吾さん
文学部 英語英米文学科
2020年卒業

世界に向きあうビジネスへ、 背中を押してくれた、OB・OGの力

マーケティングとして 海外戦略の最前線に立つ

セラミックメーカーの電子部品事業本部でプロダクトマーケティングを務めています。入社して国内営業を3年半経験したあと、1年間の海外研修を経て、現在は北米エリアの未参入市場へ参入し、実績の確立に取り組んでいます。市場調査と顧客訪問を重ね、開発部門とともに新製品の開発も推進しています。

自己を客観的に分析、 自信をもつて面接に臨む

就活で最もむずかしかったのは、客観的に自分を評価し、その適性・能力と企業をマッチングすることでした。実社会の中で自分が本当に何をしたいのか、何に向いているのか。それを知ることとは意外と難題で、就活仲間との話し合いなども含めて、自分自身に向き合っていました。キャリアセンターではマンツーマンで親身になって対応していただき、自分を深掘りすることができました。結果、自分の長所が「人を巻き込む力」であることがわかり、面接時にも自信をもって自己PRすることができました。

甲南ネットワークに連なり、 後輩をサポートしたい

甲南ネットワークを生かしたOB・OG懇談会に学生時代に参加したことも、就活にはとても役立ちました。実際に企業で活躍しておられる先輩方と話す機会を得て、自分の思いや考えを、相手に論理的に伝える力をつけることができました。現在の会社に興味をもったのも、懇談会で先輩のお話をうかがったことがきっかけでした。

甲南大学で出会った恩師や職員の方、先輩や後輩、同級生のおかげで現在の自分があると感じています。甲南大学は、自分が動こうとさえすれば、手を差し伸べてくれる人がたくさんいる環境です。そこで受けた恩を、OB・OG懇談会やビズリーチ・キャンパスなどを通じて、今後も後輩たちにつないでいきたいと思います。



キャリアセンターの早期活用で 念願の三井住友銀行に内定

姉のアドバイスで 早くから就活に着手

姉から、「就活は早めに始めた方がいい」とアドバイスをもらっていたので、早いうちからキャリアセンターの面接練習や企業セミナーを活用していました。特にグループ面接実践会では、3年次の早くから面接の雰囲気になれることができ、非常に良かったと思います。また、苦手に感じていたエントリーシートの作成についても、キャリアセンターで何度も添削してもらったおかげで、なぜその業種を選び、その会社を志望するのかを自分のことばで伝えることができるようになりました。

チームでの 課題解決を体験する

学生時代に力を入れたこととして、兵庫県内の企業と大学が連携したプログラム「わたしのキャリア」をキャリアセンターからの情報で知り、参加しました。そこで他大学生とともに取り組んだのが「女性社員が8・5%の会社でより働きやすくするには」という課題でした。私は4人チームのリーダーとなり、お互いのコミュニケーションを密にし、各人に役割を割り振ることでミーティングの活性化につとめました。その結果、問題点を可視化でき、課

題をもつ企業へ新たな制度導入を提案することができました。この活動でチームでの課題解決の方法論を学び、コミュニケーションに自信がつき、就活に向けての下地づくりもできたと思います。

大学のサポートにより 働く現場を知る

金融業界が第1志望でしたが、他業種も含めて10社エントリーし、インターンシップは約15社に参加しました。さまざまな企業を知ることが、私にとって、とても大きな学びになりました。

最終的に三井住友銀行の総合職に内定をいただき、入行を決めました。三井住友銀行は、アルバイトの給与と振込口座になっていたことから、身近に感じていました。大学主催の企業見学ツアーやOB・OG懇談会などを通じて、職場の雰囲気と仕事の内容をよく把握でき、私の適性と希望にマッチしていたことも、この銀行を選んだ決め手でした。

配属先は、銀行の窓口業務の予定です。将来は、お客さまへの接客や事務作業を通して、お客さまに最適なサービスを提供できるようになりたいと思っています。念願がかなった職場なので、来年4月の初出勤へ向けて期待に胸を膨らませています。

改修前の10号館



竣工時(1983年)



エントランス・ラウンジ

甲南大学の正門を入ってすぐ右側に建つ10号館は、1983年に竣工されました。1995年1月17日の阪神・淡路大震災により、ほとんどの校舎が被害を受ける中、図書館などとともに建て替えを免れた数少ない建物の一つです。今回の改修前は、エントランスに特徴的なC型ベンチが設置されていました。

新理系棟

(2027年完成予定)

2027年に完成予定の新理系棟は、すべての学生が利用できる共用フロアと、2026年に新設する「理工学部環境・エネルギー工学科」の研究フロアを備えた4階建ての校舎です。理系を中心とした学生の憩いの場としての役割を担うとともに、学びや研究成果の発信、研究プロジェクトの推進、実証実験の実施など、さまざまな活動を積極的に展開することを構想しています。

新理系棟パース

※現時点でのイメージであり、今後変更の可能性あります。



解体前の旧理系棟(15・16号館)



竣工時の旧理系棟(15号館)

10号館1階 i ENTRANCE

アイ・エントランス



エントランス

「知」へと続く入り口というコンセプトの「iEntrance」は、学生の創造的な学びの場となる「知のラウンジ」、甲南大学の研究・教育成果を発信する「知のギャラリー」で構成されています。「iEntrance」の「i」はIntelligence(知)、Infinity(無限の可能性)、Irodori(彩り教育)という、甲南大学が描く未来図の中心となる頭文字を採用しました。

知のラウンジ



プロジェクトルーム



ユニバーサル多目的トイレ



知のギャラリー



甲南 新解 書体

#07

変わりゆく学舎

「甲南大学の情報発信」と「多様化する学生のニーズに対応した空間の創出」をテーマに進めてきた10号館のリニューアル計画は、2025年3月に改修工事が完了。1階には、学生や教職員、本学を訪れる卒業生、企業の方々も利用できる新スポット「iEntrance」が誕生しました。懐かしい過去の校舎や、2027年完成予定の「新理系棟」とともにご紹介いたします。



SINCE 1960

カフェデュニーク



阪急岡本駅改札を出てすぐ、目の前に現れるレンガ造りの佇まい。創業時はガラス張りのパーラーでしたが「時代に左右されない普遍的な場所でありたい」と、約50年前に現在のスタイルに改装されたとか。使い込まれた木製のテーブルや椅子、階段脇のスタンドグラスに懐かしい気持ちが呼び起こされます。「わっ、まだあった!」と、50年前の卒業生が驚き喜んだエピソードも。貸切できる3階は甲南大生のお茶会や、グラウンドが六甲アイランドへ移転する前は体育会の打ち上げにも利用されていたとか。フードメニューはすべて手作りで、創業当時から変わらぬ味にファンも多く、今なお多くの人に親しまれています。

▲かたみに焼き上げたプリンにカラメルソースの香ばしさがたまらない。自家製プリンは550円(税込)。

▲サイフォンで淹れるコーヒーは440円(税込)。

▶懐かしいおいしさのハンバーグももちろん自家製。写真は特製ランチのめだま焼きバーグ、ドリンクもついて1353円(税込)。

〒658-0072

神戸市東灘区岡本1-13-15

078-451-7522

営業時間: 平日 9:30~21:00 土日祝 9:00~21:00

定休日: 無休



ちょっぴり贅沢なゆったりタイム。



SINCE 1985

THE甲南ハイボール

JR摂津本山の駅前で40年、「学生のうちから本物に触れてほしい」との思いから、おいしい酒と料理をリーズナブルな価格で提供し続けているバー。料理はすべて手づくりで、スモークサーモンならサーモン丸ごと一尾を仕入れて調理するなど、本格的。店名にもなっているハイボールは、一気に注ぐ強炭酸で味と香りがキリッとし立ち上がってくる一杯です。この店の味が忘れられずに、現役の甲南大生はもちろん、卒業生もよく顔をのぞかせるのだとか。今でもお盆や年末には、懐かしい卒業生たちからの予約が入るそうです。先輩から後輩へと代々受け継がれていく、甲南大生の“聖地”に、今夜も明かりが灯ります。

▲ハイボールは385円(税込)から。

▶オードブル3種盛550円(税込)。ポテトサラダ、生ハム、オニオンペーパーコンのキッシュ。風はしっとりとした口当たりで、おいしさへの一手間を感じる。

▶スモーク盛り合わせ440円(税込)。カレー風味の卵、チーズ、たくあん(!)のスモーク。添えられたドライトマトも自家製!

〒658-0072

神戸市東灘区岡本1-2-28

078-412-4110

営業時間: 月~土 17:00~23:30

定休日: 日曜不定休

※週末はほぼ満席になるので予約がおすすめ



岡本ぶらり

第17回

私たちが紹介します

ナビゲーター/

もっとさん と なんぼーくん

「岡本」のまちをもっともっと知りたい! 好奇心旺盛な女の子と、ご存知甲南の公式キャラクター。



あそこも現在も、甲南大生は岡本で Part2

岡本・摂津本山駅周辺で30年以上続く、大学帰りに寄りたくなるお店を紹介

ドアを開ければ懐かしい記憶がよみがえる、卒業生にとって青春の場所。現役生にとってはこの街の大先輩のようなお店が、岡本にはいくつも残っています。近くまでお越しのときは、ちょっと寄り道してみませんか。



大学帰りに、ぶらりとお散歩。今日はどのお店にしようかな。



SINCE 1980

貴味蛸

銅製の焼き鍋でふんわりとろりと焼かれるまるい玉子焼(別名明石焼)。くると鍋を返せば、板の上にほかほかと並ぶそれを、お出汁につけていただきます。優しくホッとする味わいに、つついとお出汁のおかわりをするお客さんも。秘伝のタレで餡にしっかり味付けをした焼きギョーザは、ニンニク不使用とは思えないほどコクがある一品。創業時からある大餅(ターピン)など、中華メニューも人気です。山手幹線沿いで45年続く家族経営のお店は、お客さまも親子二世、三世で来られる方や、長年の常連さんも多く、地元で愛され続けています。変わらぬ味わいを求めて、カウンターはいつも鈴なりです。

▶玉子焼(10個)750円(税込)と五目焼(10個)850円(税込)。五目焼はタコ以外にひき肉とネギ入り。食べ比べるのも楽しい。

▶餃子750円(税込)は、注文を聞いてから包んでくれる。自家製ニンニク味噌がよく合う。



〒658-0003

神戸市東灘区本山北町3-6・17 サン本山1F

078-452-9861

営業時間: 水~月 17:00~20:00 L.O.(日曜のみ12:00~14:00 L.O.も営業)

定休日: 火曜日

※小さなお店なので予約がおすすめ



※価格は取材時の料金です。現在の料金については、各店舗にご確認ください。

